

平成27年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：イネ・いもち病（No. 3）

平成27年6月22日
鳥取県病害虫防除所

置き苗巡回を行った結果、一部でいもち病の発生が確認された。また、ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件の出現は、6月9日から21日までの期間に5回確認された。現時点では、本田における広域発生は認められていないが、今後の発生状況に注意が必要。本田初期のいもち病防除に対する注記事項を以下に示すので、業務の参考にしていただきたい。

1 置き苗巡回調査の結果

6月12日から19日に行った調査の結果、補植用置き苗の放置ほ場率は9.9%（調査ほ場数3, 787ほ場）であった。また、調査ほ場全体に対して、置き苗でいもち病の発病が認められたほ場の割合は0.7%であった。なお、一部の本田でいもち病の発生が確認されているが、発病した置き苗からの感染によるものであり、現時点では広域発生には至っていない。

2 水稲いもち病発生予測システム（ブラスタム）の判定結果等

(1) ブラスタムによる葉いもちの感染好適条件または準感染好適条件は、6月9日、6月12日、および6月19日から21日にかけて広域で出現した（表1）。

(2) 6月18日発表の気象1か月予報によると、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、本病の発生に助長的である。

* ブラスタムについて

ブラスタムとは、アメダスの気象データを用いて、葉いもちの感染に好適な条件であったかどうかを広域的に判定するシステムである。いもち病は感染後、発病するまで約1週間かかるため、感染好適日が広域に出現してから、約1週間後に広域に新しい病斑が確認できる。

表1 ブラスタムによる感染好適日の出現状況

日付	鳥取	青谷	岩井	智頭	倉吉	塩津	米子	境	茶屋
6/9	○	○	○	—	○	—	○	—	○
6/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/11	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/12	—	○	—	○	—	○	—	—	○
6/13	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/16	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6/17	—	—	—	—	—	—	—	—	○
6/18	—	—	—	—	—	—	—	—	●
6/19	●	●	—	●	●	●	●	●	○
6/20	—	●	●	—	—	—	—	—	—
6/21	—	—	○	●	—	—	—	—	—

注）●感染好適日、○準感染好適日

3 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、本田へのいもち病の伝染源となるので、早急に処分する。
- (2) 育苗箱施用剤を使用しても十分な効果が得られない場合があるので、ほ場の見回りなどを行い早期発見に努める。
- (3) 本田において上位葉に急性型病斑がみられる場合には、治療効果を有する粉剤、水和剤などを散布し、その後は病勢に応じて追加防除を行う。
- (4) 本田施用剤粒剤（オリゼメート粒剤等）を使用する場合は、予防防除が基本であり、発生後では十分な効果が得られない。
- (5) 本県では、ストロビルリン系薬剤耐性菌が発生しているので、本系統薬剤の使用を控えること。
- (6) 防除に当たっては、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業者の安全の確保に努めること。